２０２２・１２・１８　　黄金井尚美　主任牧師

インマヌエルを迎える

マタイ１：１８～２５

＜ヨセフの苦悩＞

自分の婚約者が妊娠している事実を知り激しく動揺した。

マリアの裏切り？　起きた事柄について葛藤し深く悩んだ。

夫ヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。

【１９節】

秘かにマリヤと離縁することを決断。しかし、苦悩は続く。

「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）【２３節】

＜２つの名前＞

主の使い・・・「イエスと名付けなさい」　　神は救い

預言者イザヤを通して・・・「その名はインマヌエルと呼ばれる」

イエス様の誕生の予告の時から、終わりの時まで「わたしは共にいる」

それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

マタイ２８：１９，２０

＜結婚までの４段階＞

①いいなずけの期間　　親同志の話し合いで、子どもの頃から相手が定められた。

②一年の婚約期間　　法律的には婚姻関係。実際の生活はまだ始まっていない。

③結婚式　　婚約期間の１年が終わった後、結婚式。

④結婚生活スタート

「ダビデの子ヨセフ。」

ヨセフは、自分の名が呼ばれる声を聴いた。

ダビデの子というのは救い主を名指す時に使われる言葉。ヨセフはこのダビデの家系。

ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。

【１６節】

◆誰にも打ち明けられない苦悩を背負ったヨセフ。孤独だった、光が見えなかった。
しかし、その渦中にあって「神が共におられる」という事実を自らが体験した。

◆マリヤを妻に迎える決断をしたが、その先には困難がある事も予測できた。
神様はヨセフに労苦を負うことを求められた。そしてその使命をヨセフは負った。

＜インマヌエルなる神を知る２つの面＞

苦しみの中に置かれたときだけではなく、主から託されたものを負っていく信仰の決心をする時に、「インマヌエル・神が共におられる」ことを知る。